（別紙4）　　令和　5　年度

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要（事業所記入）】

事業所番号	4370500565		
法人名	医療法人すえひろ会		
事業所名	グループホームゆうゆう		
所在地	熊本県水俣市塩浜町２－１９		
自己評価作成日	令和5年11月15日	評価結果市町村受理日	令和6年2月21日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。（↓このURLをクリック）

基本情報リンク先	http://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/43/

【評価機関概要（評価機関記入）】

評価機関名	特定非営利活動法人　あすなろ福祉サービス評価機構
所在地	熊本市中央区南熊本三丁目13－12－205
訪問調査日	令和6年1月15日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点（事業所記入）】

当施設は、医療法人であり、敷地内には渕上クリニック（内科・整形）介護医療院ふちがみがあります。日中、夜間を通して緊急時の医療体制も連携がとれています。グループホームゆうゆう周辺は季節の花々に囲まれ静かな環境です。運営理念「家庭的な雰囲気の中でゆったりと楽しくいきいきと」の理念の基、入居者と共に職員も毎日楽しく馴染みのある関係つくりを行い、趣味活動の充実を図っています。（書道・花植え・野菜の収穫・散歩・脳トレ・ゲーム等）個別に好まれる事を実践しています。
今年度は、看取りについて職員全員で学び、看取りが出来る環境を整えています。感染対策は引き行いながら、外出・外泊等も出来るようになり家族との交流も増えました。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点（評価機関記入）】

開設して20年という経年の中で、高齢化した中でも自立した生活や、これまでの生活に注視した趣味の継続等が元気を取り戻し、楽しい時間を創意工夫して支援しており、大運動会等の行事や野菜の栽培や花植えなどコロナ禍以前の生活に戻りつつ有り、理念の中で謳う“ゆったりと楽しく　いきいきと”が職員のみならず入居者にも浸透しているホームである。例として「ゆうゆうの里で　ゆうゆうと　ありがたきかな」とする書き初めや、居室に理念を具体化して掲示する入居者に表われている。変動の無い職員体制は風通しの良い環境となり、医療法人に隣接というスケールメリットは医療面での安心感や研修体制の強化として生かされ、最期の時まで支援したいと研修を積み重ね来たるべき時に備える等志向を高くして臨むホームである。

Ｖ．サービスの成果に関する項目（アウトカム項目）　※項目№1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

	項　目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる（参考項目：23,24,25）		1. ほぼ全ての利用者の
		○	2. 利用者の2/3くらいの
			3. 利用者の1/3くらいの
			4. ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある（参考項目：18,38）	○	1. 毎日ある
			2. 数日に1回程度ある
			3. たまにある
			4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている（参考項目：38）	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている（参考項目：36,37）	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている（参考項目：49）		1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが
		○	3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている（参考項目：30,31）	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
62	利用者は、その時々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている（参考項目：28）	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない

	項　目	取り組みの成果 ↓該当する項目に○印	
63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている（参考項目：9,10,19）		1. ほぼ全ての家族と
		○	2. 家族の2/3くらいと
			3. 家族の1/3くらいと
			4. ほとんどできていない
64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている（参考項目：2,20）		1. ほぼ毎日のように
			2. 数日に1回程度
		○	3. たまに
			4. ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている（参考項目：4）		1. 大いに増えている
		○	2. 少しずつ増えている
			3. あまり増えていない
			4. 全くいない
66	職員は、活き活きと働けている（参考項目：11,12）	○	1. ほぼ全ての職員が
			2. 職員の2/3くらいが
			3. 職員の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が
			2. 家族等の2/3くらいが
			3. 家族等の1/3くらいが
			4. ほとんどできていない

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項　目	自己評価 実践状況	外部評価 実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅰ.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	運営理念 「家庭的な雰囲気の中で ゆったり楽しくいきいきと」を日々、実践に繋がるよう職員全体で共有出来ている。	職員の入れ替りも無く、基本理念は入居者の生活の中で息づき、会議時の確認により周知徹底している。理念が日常に生かされ、楽しい時としてホーム内での生活を充実させている。理念を具現化して自身でしたためた書を居室に掲示する入居者等入居者にも理念が浸透し、残存能力を生かした生活ぶりや理念をもとにした介護計画（楽しく過したいとする入居者の希望）に理念を大切にしたホームであり、“ゆうゆうの里で　ゆうゆうと　ありがたきかな”とする入居者の書き初めにホームの姿勢が顕著に表われている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	これまでは、コロナ感染対策で地域の行事も中止が多かったですが、少しづつ元の生活が戻り、運営推進会議でもイベント等の情報交換を行っている。	地域には感染症で中止されたいた行事が再開されており、運営推進会議を通して地域の情報をリサーチし入居者との参加を検討している。地区の「きずなの会」に参加する等ホームとして地域との関係が築かれている。今年度は、福祉科の高校生を受け入れ、定期的にボランティアとして入居者の接してもらいたいと依頼されており、今後に大いに期待される。	中学校からの声や運動会等を眺められる場所にあり、感染症次第では入居者も地域へ出ながら交流できるよう検討いただきたい。
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域の認知症相談窓口としてサポートセンターを設けている。地域包括センターより、のぼり旗の配布にて分かりやすいところに旗を立てている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	今年度より、順調に運営推進会議の開催する事が出来ている。地域の困りごと、情報や市・包括の職員も一緒にグループホームの生活の状況も含め活発な意見交換ができている。	定期的に開催する運営推進会議は、対面での開催となり、ホームの現状やインシデント・ヒヤリハット事例、各委員会活動や身体拘束廃止に向けた取り組み等を説明し、各参加委員との意見交換を行っている。また、地域の情報リサーチの場や地域の困り事を知る機会となり、行政への橋渡しの場として生かされている。	充実した会議であり、家族の他、入居者も参加できるようであれば検討いただきたい。入居者のいきいきとした生活ぶりを見てもらうことで認知症ケア啓発に繋がるものと大いに期待される。

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	市・地域包括支援センターの担当職員とは、困った時に気軽に相談することが出来ており、風通しの良い関係を築くことが出来ている。	行政担当者や地域包括支援センター等とは気軽に相談出来る関係に有り、地域の認知症相談窓口としてサポートセンターとして長年関わっている。また、市の取り組みである福祉科の高校生の受入や地域包括支援センターよる入居相談を更に行政に相談し特例入居に至る等各関係機関と協力関係を築いている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介護指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	今年度より「身体的拘束適正化・虐待防止検討委員会」と名称を変更し、3か月に1度、法人内で委員会開催。年に2回の研修会を実施。言葉のチェックリストを活用し職員の意識を高めている。	身体拘束ゼロ宣言を掲げたホームでは、身体拘束廃止指針を見直し、「身体的拘束適正化及び虐待防止検討委員会」の開催、及び年2回のチェックリストにるり言葉使いの再確認等により意識を強化させている。年2回市の研修会へ参加し、伝達講習により共有化としている。感染対策時の対応について家族に同意を得た支援を経過カンファレンスにより検討したり、帰宅願望時の対応等運営推進会議の中で報告し、意見交換を行っている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないよう注意を払い、防止に努めている	高齢者虐待防止について、水俣市の包括支援センターが定期的に開催される研修会に参加し、研修に行った職員が伝達講習を行うように取り組んでいる。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	権利擁護については、包括支援センターから相談を受け、保佐人をつけた方の紹介があり現在入所されている為、この方の支援の仕方については、保佐人もふまえて検討している。職員にも情報共有している。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又はや改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入所契約に関しては、事前に説明させていただき不明な点、お尋ね事は先に聞いている。入所当日に重要事項説明書の内容説明行い、ご家族が納得された上で契約を交わしている。		

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	現在は入居時にゆうゆうのiPadでライン登録して頂き、随時、ご家族ごとに生活の様子を伝えたり行事の際は写真を送ったりと頻繁に情報交換出来ている。運営推進会議でも運営内容を報告している。	家族への情報発信源として新聞と写真による毎月の報告、ラインでの状況発信や急ぐ場合には電話にで連絡を行い意見等を聞き取りする他、コロナ感染に対する情報は書面で報告し家族の不安軽減に努めている。家族の要望等に随時対応しており、例として居室や衣類の整理等には居室への入室も可と変更している。敬老会兼家族会の再開や運営推進会議への参加を新年度から検討する意向であり、家族の忌憚の無い意見等を収集する機会として期待される。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月、グループホームの運営会議を行っている。各、委員会の報告、検討事項、連絡事項の報告を行い情報を共有することができている。	施設長参加による毎月の運営会議や法人全体での委員会活動（主任が参加し、全職員に周知を図っている）、日々の申し送りや申し送りノート等を活用する他、グループラインにより情報を共有している。食を外注としたことで時間的な余裕がレクレーションの充実に繋がり、記録方法の変更や増設が面会室等として活用されている。職員体制に変動も無く、何事も言いやすい環境が築かれている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	勤務調整も職員で協力しあい、体調不良や家庭の都合等も含め柔軟な勤務変更が出来るよう努める。職員が安心して働けるように整備している。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	少しづつ、外部研修も増えてきているので参加している。ホーム内でも、看取り研修に取り組み、学習する事が出来ている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	今年度から、地域密着型部会も集合型の開催が出来ており、他事業所の仲間と顔を合わせて会議や研修を実施することが出来ている。		

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入所前には、担当ケアマネから情報を収集し、ご家族と日程調整し自宅に訪問させて頂き面談している。本人、ご家族の要望を聞き家庭に近い環境が提供できるように努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入所するにあたり、入居してもご家族の協力は必要であることを説明している。慣れるまでは帰宅願望や生活に不安な事もある為、入居者の声に耳を傾け、寄り添った支援につとめている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人、ご家族の意見を聞き入れ、ニーズに合ったケアの提供が出来るよう、入居前の介護サービスの内容や情報を収集して出来るだけ対応できるよう努めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	入居者、職員は毎日生活を共にする家族のように、運営理念でもある、家庭的な雰囲気の中でゆったりと楽しくいきいきと暮らせるように関係を築いている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご家族と情報は常に風通しの良いものとし、ご家族の支援、協力なしては本人を支えてはいけないのでご家族の相談も聞き入れながらご家族との信頼関係に努めている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	面会制限も緩和され、昨年には面会室も増設し、予約制ではあるが、ご家族はもちろん、知人や友人の面会も行っている。最近では、外出、外泊される方も多くなり、本人の大切な人との交流が出来るようになった。	家族や友人・知人の訪問や、正月の外泊、毎月受診前日は自宅で過し受診後にホームに帰る入居者、本人の希望により週に1回家族との半日をショッピング等に出かける方等家族の協力を得て支援している。ホーム周辺からの入居者も多く、ホームそのものが馴染の場所、入居者と職員との関係も馴染みの関係が築かれている。	

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	入居者同士、揉め事もあるが、職員が間に入り、必要に応じ、席の配置を変えたり、入居者の声に傾聴し生活しやすい環境を整えている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退所されたご家族が、野菜の差し入れをしてくださったり、近くに来られた際は、近況を報告したりと退所されても関係性の継続は出来ている。		
Ⅲ．その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	（9）	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	入居前に本人、ご家族へ要望を聞き、意見を取り入れながら、本人が安心して生活が出来るよう支援していく。ご家族へも必要に応じて対応して頂けるように説明している。	日々の会話の中で希望等を聴き取りする等入居者の意思を把握し、“○○したい”の声に応えている。意思疎通が難しいには家族の要望等を取り入れ、認知症状の進行により会話もなりたたない場合には、表情・行動等によりその思いを推察し、本人本位になるよう支援している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	ご家族や、以前利用していたサービス事業所に情報を収集し、生活歴を把握したうえでこれまでの生活の継続が出来るよう把握に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	入居者一人ひとりの生活が安心、安全で穏やかに暮らせるよう体調管理に努めている。		
26	（10）	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイディアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	介護支援専門員を中心に介護計画を作成し、本人、ご家族に要望等の聞き取り行い、担当職員がモニタリング行い、本人が必要としている生活になるよう意見を出し合い作成に努めている。	入居当初は入居により生活環境に慣れるためのプランにより生活意欲の維持・向上等をプラン化している。本人が大切にしていることや希望を把握し、定期的な見直しにより実現可能な目標にする事案を検討する等具体的且つ詳細な介護計画である。ヒヤリハットや事故発生時には随時ケアカンファレンスを開催し、転倒を起こさないことを目標として転倒・転落対策看護計画表を作成しチェックしている。	

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	毎日、個人カルテに生活の様子をケアプランにそって記録している。体調の変化が合った場合等は、2号用紙を活用している。入居者の情報共有するために申し送りノートの活用をしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々に生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	本人やご家族の状態に応じて、出来る限りの柔軟な対応が出来るよう取り組んでいる。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域の行事や活動など、運営推進会議の中で報告して下さり、地域の活動で参加出来る事があれば参加出来るように支援していく。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居前にかかりつけ医を確認し、もともとのかかりつけ医の継続や母体の医療機関へ変更されている。本人、ご家族の意向に沿った医療の提供が出来るように支援していく。	本人・家族に希望するかかりつけ医を支援しており、これまでの医療機関の継続や同法人の医療機関へ変更されている。他の医療機関への受診は基本的に家族の対応としているが、家族の都合によっては職員が対応している。職員は日々のバイタルチェックにより早期の異常発見や新たに看護職員を配置している。更にiPadにより医師との情報を共有している他、訪問看護等24時間の連携により適切な医療を支援している。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	法人内に、渕上クリニック、介護医療院ふちがみがあり、入居者の体調の変化がある時は、日中はクリニック、夜間は医療院へ連絡が出来る医療体制ができている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院治療が必要となった場合、医師からの治療方針をご家族と共に、介護支援専門員、主任を交えて情報を共有し退院支援を行っている。		

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	ご家族へ重度化、終末期について希望、意向を聞き出来るだけご家族の思いに添えるよう、関係機関で連携している。グループホームでの看取りも出来るよう職員全員で取り組んでいる。	母体医療機関と連携しながらホームでの看取りを視野に研修を重ねており、看取りの部屋を作る構想もある。重度化・終末期について家族の意向を確認した上で希望される場合にはホームでの最期の支援に取り組む意向であり、家族の中にはホームで継続した暮らしの希望もあり、職員の不安軽減に研修を重ね、今後に備えている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変・事故発生時の対応について、マニュアルに沿って対応できるように見直しも随時行いながら、いざという時に、誰もが対応できるように取り組んでいる。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年に2回、避難訓練の実施。出来る限り入居者も一緒に訓練を行っている。地震、水害等の訓練も地域密着型サービス部会の中で、BCPの作成や連絡の仕方、備蓄等について検討している。	消防署立ち会いにより火災訓練を実施し、入居者も玄関口まで避難し、実際に水消火器を体験している。居室のドアには個別の避難方法を明示し、着替えや防災頭巾を常備している。食品等の備蓄は法人で確保し、その他必要な物品をホームで管理している。事業継続計画（BCP）はすでに策定しており、今後勉強会の中で共有するとしている。	火災については、日々安全点検を行っている。今後も行政主催の避難訓練等に参加しながら、地域との協力体制を築かれることを期待したい。
Ⅳ．その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	入居者、一人ひとりの個性や性格を把握することで趣味や活動を通してその人らしい生活が継続出来るように、私達、職員は思いやりの心で優しく丁寧な対応が出来るよう努めている。	ホームでは入居者の趣味、活動を通して個々の楽しみと残存能力を引き出し、生活の充実に努めている。入居時のアンケートや聞き取りにより呼称を確認し、苗字を中心にこれまで呼ばれていた下の名前でも対応している。和気あいあいとした生活ぶりの中にも、職員は節度をもってケアに当っている。権利擁護やプライバシーの確保等研修を行っている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	入居者の希望に添えるよう、一人ひとりの声に耳を傾け思いに添えるよう支援している。必要に応じて、ご家族に協力を仰いでいる。		

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	家庭で過ごされていた生活を基に生活リズムを把握し、一人ひとりのペースで生活が出来るように支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	自分で衣類の選択や洗面台で髪を整えたり、出来る限りは、本人へして頂いている。散髪も定期的に来ていただきホームで散髪される方が多いが、これまで通っていた美容室に行かれる方もおられる。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	昨年の12月より、昼食・夕食は、法人委託の日清からの提供となった。イベント食もあり品数も多く入居者も喜ばれている。朝食のみ、ホームで食事を作っている。おやつ等は、一緒に作業して楽しんでいる。	現在、朝食はホームで調理しているが昼食・夕食は法人の委託業者からの提供へと12月より変更している。月毎に企画される全国駅弁の日や誕生日の食事、おせち料理等趣向を凝らし、時にはテーブルにまな板を並べて食材を切り、餃子作り等を行っている。菜園の野菜や果実も調理や保存食に利用されている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	毎食の食事時のお茶の他、10時、15時にコーヒーやのむヨーグルトなど好まれる物を飲んでいただいている。夜間は一人ひとりに補水ボトルを提供している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食前は、イソジンうがい薬でうがいを行い、毎食後、義歯を外し口腔ケア実施。必要に応じて介助している。夜間は洗浄剤に漬けて清潔を保っている。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	入居されてから暫くは、排泄パターンを把握に、声かけ誘導を行いながら、パターンを掴んでいる。オムツ使用されている方に関しては尿取りパットの選定をこまめに行っている。	入居者個々の排泄パターンを把握し、時間的な声かけ・誘導や車椅子利用者も立位ができればトイレへ誘導し、失敗を極力減らし、排泄用品の削減にも努めている。最高齢の入居者もポータブルトイレを利用しながら布下着で過される等自信に繋げている。	

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排便コントロールが必要な方は、医師・薬剤師の指導のもと、内服調整を行っている。予防として、体操をしたり、ヨーグルトや牛乳などの提供もしている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	基本、一日おきの入浴であるが、汚染されたりした時にはシャワー浴などで対応している。一人でゆっくりと職員との会話を楽しんで入浴することができている。	毎日入浴の準備を行い、一日置きの入浴を支援している。入居者にはゆっくりと入ってもらい、職員との一対一の時間を楽しんでもらっている。着脱の手間から拒否されることもあるが、職員が声かけを工夫すると長風呂につながる等個別の関わりも職員間で共有している。汚染時には入浴により清潔保持に努めている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々の状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	出来るだけ夜間は、ゆっくり休まれるように日中は、活動を取り入れている。室内の温度調整もこまめに行っている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	昨年より、訪問薬剤管理指導を導入し、全入居者がうけている。些細なことでも聞いたり、薬のセット管理をして頂いている。医師より変更等あった時には、変化がないかなどこまめに管理し、職員間でも情報把握している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	入居者が生活する中で、これまで好んでいた事や、掃除、洗濯等の出来る範囲で行えるように支援している。季節に応じて、イベントを開催し楽しんで頂いている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	現在は、面会・外出・外泊も本人とご家族の希望があれば随時行っている。これまでコロナ禍で思うように会えなかったが、ようやく感染対策を行いながらご家族の協力のもと実施出来ている。月に一度、定期的に外泊の予定をされるご家族もおられる。	ホーム周辺の散歩や神社参拝、ゴミ捨てに職員と出たり、庭先に出て中学校の運動会を見たり、花植え・野菜の収穫等感染症が5類に移行し活動の幅を広げている。リスクはあるものの数年支援できなかった家族とのふれあいを優先し、入居者の行きたい思いの実現に家族に叶えてもらっている。	

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	入居者個人のお金はお小遣い程度お預かりし管理している。使用した内容は個人出納帳にて記入しご家族にも確認して頂いている。必要物品はご家族に持って来て頂いたり、急ぎの物は職員で購入している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	近年は、携帯持参で入居される方も多い為、毎日決まった時間に電話をされるご家族もおられる。入居者がご家族にメールをされる姿もみられる。遠方のご家族から手紙や写真が送られる事もある。こちらからはラインで写真等の発信をしている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	各居室、ご家族にレイアウトして頂き少しでも自宅で生活していた環境に近い空間が提供出来るようにしている。ホームでは、季節に応じて壁飾りを入居者と一緒に作成し、作業の一環として楽しまれている。	経年を感じさせないほどホーム内外の手入れが行き届き、訪れる物の目を楽しませている。“花いっぱい運動”で贈られた苗を入居者と職員とで植えた花は、ホーム前の道路の環境美化の一役を担っている。広い住環境を生かした秋の大運動会では各競技に入居者の溢れんばかりの笑顔を引き出し、ユニット毎に入居者の趣味や職員の得意分野を生かした壁面飾りなど季節感を醸し出している。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	居間の共有スペースでテレビ観たり談話されたり自由に過ごされている。入居者同士ソファーでくつろぎながら話が弾んでいる所を毎日見かける。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	普段使っている物を持ち込んで頂き、馴染みの物に囲まれて安心した生活が出来るようご家族の協力のもと居室が居心地の良い空間となるよう努めている。	入居に当り、居室への持込みは自由であると説明している。洗面台・クロゼット・ベッド等整備されており、テーブルや椅子、家族との思い出の品や、位牌を持参し水を供え手を合わせる入居者や趣味の書道を日課として自身が使いやすよう工夫された居室等自宅での生活の沿線上にある居室環境である。	

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	入居者一人ひとりの状態に合わせて出来る事の見極めをし、残存機能を活かせるよう活動を重視し生活する中で生きがい、楽しみに繋げて行けるよう工夫している。		

（別紙4）　　令和　5　年度

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要（事業所記入）】

事業所番号	4370500565		
法人名	医療法人すえひろ会		
事業所名	グループホームゆうゆう		
所在地	熊本県水俣市塩浜町２－１９		
自己評価作成日	令和5年10月	評価結果市町村受理日	令和6年2月21日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。（↓このURLをクリック）

基本情報リンク先	http://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/43/

【評価機関概要（評価機関記入）】

評価機関名	特定非営利活動法人　あすなろ福祉サービス評価機構
所在地	熊本市中央区南熊本三丁目13－12－205
訪問調査日	令和6年1月15日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点（事業所記入）】

当施設は、医療法人であり、敷地内には渕上クリニック（内科・整形）介護医療院ふちがみがあります。日中、夜間を通して緊急時の医療体制も連携がとれています。グループホームゆうゆう周辺は季節の花々に囲まれ静かな環境です。運営理念「家庭的な雰囲気の中でゆったりと楽しくいきいきと」の理念の基、入居者と共に職員も毎日楽しく馴染みのある関係つくりを行い、趣味活動の充実を図っています。（書道・花植え・野菜の収穫・散歩・脳トレ・ゲーム等）個別に好まれる事を実践しています。
今年度は、看取りについて職員全員で学び、看取りが出来る環境を整えています。感染対策は引き行いながら、外出・外泊等も出来るようになり家族との交流も増えました。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点（評価機関記入）】

Ⅴ．サービスの成果に関する項目（アウトカム項目）　※項目№1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

	項　目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる（参考項目：23,24,25）		1. ほぼ全ての利用者の
		○	2. 利用者の2/3くらいの
			3. 利用者の1/3くらいの
			4. ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある（参考項目：18,38）	○	1. 毎日ある
			2. 数日に1回程度ある
			3. たまにある
			4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている（参考項目：38）	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている（参考項目：36,37）	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている（参考項目：49）		1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが
		○	3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている（参考項目：30,31）	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
62	利用者は、その時々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている（参考項目：28）	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない

	項　目	取り組みの成果 ↓該当する項目に○印	
63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている（参考項目：9,10,19）		1. ほぼ全ての家族と
		○	2. 家族の2/3くらいと
			3. 家族の1/3くらいと
			4. ほとんどできていない
64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている（参考項目：2,20）		1. ほぼ毎日のように
			2. 数日に1回程度
		○	3. たまに
			4. ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている（参考項目：4）		1. 大いに増えている
		○	2. 少しずつ増えている
			3. あまり増えていない
			4. 全くいない
66	職員は、活き活きと働けている（参考項目：11,12）	○	1. ほぼ全ての職員が
			2. 職員の2/3くらいが
			3. 職員の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が
			2. 家族等の2/3くらいが
			3. 家族等の1/3くらいが
			4. ほとんどできていない

事業所名：グループホームゆうゆう（2F）

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅰ.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	運営理念 「家庭的な雰囲気の中で 　　ゆったり楽しくいきいきと」を日々、実践に繋がるよう職員全体で共有出来ている。		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	これまでは、コロナ感染対策で地域の行事も中止が多かったですが、少しづつ元の生活が戻り、運営推進会議でもイベント等の情報交換を行っている。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域の認知症相談窓口としてサポートセンターを設けている。地域包括センターより、のぼり旗の配布にて分かりやすいところに旗を立てている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	今年度より、順調に運営推進会議の開催する事が出来ている。地域の困りごと、情報や市・包括の職員も一緒にグループホームの生活の状況も含め活発な意見交換ができている。		
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	市・地域包括支援センターの担当職員とは、困った時に気軽に相談することが出来ており、風通しの良い関係を築くことが出来ている。		
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介護指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	今年度より「身体的拘束適正化・虐待防止検討委員会」と名称を変更し、3か月に1度、法人内で委員会開催。年に2回の研修会を実施。言葉のチェックリストを活用し職員の意識を高めている。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないよう注意を払い、防止に努めている	高齢者虐待防止について、水俣市の包括支援センターが定期的に開催される研修会に参加し、研修に行った職員が伝達講習を行うように取り組んでいる。		

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	権利擁護については、包括支援センターから相談を受け、保佐人をつけた方の紹介があり現在入所されている為、この方の支援の仕方については、保佐人もふまえて検討している。職員にも情報共有している。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又はや改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入所契約に関しては、事前に説明させていただき不明な点、お尋ね事は先に聞いている。入所当日に重要事項説明書の内容説明行い、ご家族が納得された上で契約を交わしている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	現在は入居時にゆうゆうのiPadでライン登録して頂き、随時、ご家族ごとに生活の様子を伝えたり行事の際は写真を送ったりと頻繁に情報交換出来ている。運営推進会議でも運営内容を報告している。		
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月、グループホームの運営会議を行っている。各、委員会の報告、検討事項、連絡事項の報告を行い情報を共有することができている。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	勤務調整も職員で協力しあい、体調不良や家庭の都合等も含め柔軟な勤務変更が出来るよう努める。職員が安心して働けるように整備している。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	少しづつ、外部研修も増えてきているので参加している。ホーム内でも、看取り研修に取り組み、学習する事が出来ている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	今年度から、地域密着型部会も集合型の開催が出来ており、他事業所の仲間と顔を合わせて会議や研修を実施することが出来ている。		

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入所前には、担当ケアマネから情報を収集し、ご家族と日程調整し自宅に訪問させて頂き面談している。本人、ご家族の要望を聞き家庭に近い環境が提供できるように努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入所するにあたり、入居してもご家族の協力は必要であることを説明している。慣れるまでは帰宅願望や生活に不安な事もある為、入居者の声に耳を傾け、寄り添った支援につとめている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人、ご家族の意見を聞き入れ、ニーズに合ったケアの提供が出来るよう、入居前の介護サービスの内容や情報を収集して出来るだけ対応できるよう努めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	入居者、職員は毎日生活を共にする家族のように、運営理念でもある、家庭的な雰囲気の中でゆったりと楽しくいきいきと暮らせるように関係を築いている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご家族と情報は常に風通しの良いものとし、ご家族の支援、協力なしては本人を支えてはいけないのでご家族の相談も聞き入れながらご家族との信頼関係に努めている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	面会制限も緩和され、昨年には面会室も増設し、予約制ではあるが、ご家族はもちろん、知人や友人の面会も行っている。最近では、外出、外泊される方も多くなり、本人の大切な人との交流が出来るようになった。		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	入居者同士、揉め事もあるが、職員が間に入り、必要に応じ、席の配置を変えたり、入居者の声に傾聴し生活しやすい環境を整えている。		

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退所されたご家族が、野菜の差し入れをしてくださったり、近くに来られた際は、近況を報告したりと退所されても関係性の継続は出来ている。		
Ⅲ．その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	入居前に本人、ご家族へ要望を聞き、意見を取り入れながら、本人が安心して生活が出来るよう支援していく。ご家族へも必要に応じて対応して頂けるように説明している。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	ご家族や、以前利用していたサービス事業所に情報を収集し、生活歴を把握したうえでこれまでの生活の継続が出来るよう把握に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	入居者一人ひとりの生活が安心、安全で穏やかに暮らせるよう体調管理に努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイディアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	介護支援専門員を中心に介護計画を作成し、本人、ご家族に要望等の聞き取り行い、担当職員がモニタリング行い、本人が必要としている生活になるよう意見を出し合い作成に努めている。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	毎日、個人カルテに生活の様子をケアプランにそって記録している。体調の変化が合った場合等は、2号用紙を活用している。入居者の情報共有するために申し送りノートの活用をしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々に生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	本人やご家族の状態に応じて、出来る限りの柔軟な対応が出来るよう取り組んでいる。		

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域の行事や活動など、運営推進会議の中で報告して下さり、地域の活動で参加出来る事があれば参加出来るように支援していく。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	かかりつけ医に関しては、入居前に確認し、ご家族の希望があれは、法人内のクリニックに変更されている。本人、ご家族の意向に沿った医療の提供が出来るように支援していく。		
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	法人内に、渕上クリニック、介護医療院ふちがみがあり、入居者の体調の変化がある時は、日中はクリニック、夜間は医療院へ連絡が出来る医療体制ができている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院治療が必要となった場合、医師からの治療方針をご家族と共に、介護支援専門員、主任を交えて情報を共有し退院支援を行っている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	ご家族へ重度化、終末期について希望、意向を聞き出来るだけご家族の思いに添えるよう、関係機関で連携している。グループホームでの看取りも出来るよう職員全員で取り組んでいる。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変・事故発生時の対応について、マニュアルに沿って対応できるように見直しも随時行いながら、いざという時に、誰もが対応できるように取り組んでいる。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年に2回、避難訓練の実施。出来る限り入居者も一緒に訓練を行っている。地震、水害等の訓練も地域密着型サービス部会の中で、BCPの作成や連絡の仕方、備蓄等について検討している。		

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅳ．その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	入居者、一人ひとりの個性や性格を把握することで趣味や活動を通してその人らしい生活が継続出来るように、私達、職員は思いやりの心で優しく丁寧な対応が出来るよう努めている。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	入居者の希望に添えるよう、一人ひとりの声に耳を傾け思いに添えるよう支援している。必要に応じて、ご家族に協力を仰いでいる。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	家庭で過ごされていた生活を基に生活リズムを把握し、一人ひとりのペースで生活が出来るように支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	自分で衣類の選択や洗面台で髪を整えたり、出来る限りは、本人へして頂いている。散髪も定期的に来ていただきホームで散髪される方が多いが、これまで通っていた美容室に行かれる方もおられる。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	昨年の12月より、昼食・夕食は、法人委託の日清からの提供となった。イベント食もあり品数も多く入居者も喜ばれている。朝食のみ、ホームで食事を作っている。おやつ等は、一緒に作業して楽しんでいる。		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	毎食の食事時のお茶の他、10時、15時にコーヒーやのむヨーグルトなど好まれる物を飲んでいただいている。夜間は一人ひとりに補水ボトルを提供している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食前は、イソジンうがい薬でうがいを行い、毎食後、義歯を外し口腔ケア実施。必要に応じて介助している。夜間は洗浄剤に漬けて清潔を保っている。		

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	入居されてから暫くは、排泄パターンを把握に、声かけ誘導を行いながら、パターンを掴んでいる。オムツ使用されている方に関しては尿取りパットの選定をこまめに行っている。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排便コントロールが必要な方は、医師・薬剤師の指導のもと、内服調整を行っている。予防として、体操をしたり、ヨーグルトや牛乳などの提供もしている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	基本、一日おきの入浴であるが、汚染されたりした時にはシャワー浴などで対応している。一人でゆっくりと職員との会話を楽しんで入浴することができている。		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々の状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	出来るだけ夜間は、ゆっくり休まれるように日中は、活動を取り入れている。室内の温度調整もこまめに行っている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	昨年より、訪問薬剤管理指導を導入し、全入居者がうけている。些細なことでも聞いたり、薬のセット管理をして頂いている。医師より変更等あった時には、変化がないかなどこまめに管理し、職員間でも情報把握している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	入居者が生活する中で、これまで好んでいた事や、掃除、洗濯等の出来る範囲で行えるように支援している。季節に応じて、イベントを開催し楽しんで頂いている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	現在は、面会・外出・外泊も本人とご家族の希望があれば随時行っている。これまでコロナ禍で思うように会えなかったが、ようやく感染対策を行いながらご家族の協力のもと実施出来ている。月に一度、定期的に外泊の予定をされるご家族もおられる。		

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	入居者個人のお金はお小遣い程度お預かりし管理している。使用した内容は個人出納帳にて記入しご家族にも確認して頂いている。必要物品はご家族に持って来て頂いたり、急ぎの物は職員で購入している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	近年は、携帯持参で入居される方も多い為、毎日決まった時間に電話をされるご家族もおられる。入居者がご家族にメールをされる姿もみられる。遠方のご家族から手紙や写真が送られる事もある。こちらからはラインで写真等の発信をしている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	各居室、ご家族にレイアウトして頂き少しでも自宅で生活していた環境に近い空間が提供出来るようにしている。ホームでは、季節に応じて壁飾りを入居者と一緒に作成し、作業の一環として楽しまれている。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	居間の共有スペースでテレビ観たり談話されたり自由に過ごされている。入居者同士ソファーでくつろぎながら話が弾んでいる所を毎日見かける。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	普段使っている物を持ち込んで頂き、馴染みの物に囲まれて安心した生活が出来るようご家族の協力のもと居室が居心地の良い空間となるよう努めている。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	入居者一人ひとりの状態に合わせて出来る事の見極めをし、残存機能を活かせるよう活動を重視し生活する中で生きがい、楽しみに繋げて行けるよう工夫している。		